

短期留学生報告（2006年10月～2007年9月）

加藤扶久美

1 はじめに

2005年に富山大学（五福キャンパス）、富山医科薬科大学（高岡キャンパス）及び高岡短期大学（高岡キャンパス）が再編・統合されて、現富山大学となった。旧富山大学では「富山大学短期留学生受入れ体制要項」に基づき、留学生センターが、学術交流協定校からの短期留学生のための見学旅行「スタディ・トリップ」の企画・実施と日本語教育を行っていたが、統合後も引き続き実施している。日本語教育に関しては、学生の日本語能力に応じて、日本語課外補講（五福キャンパス）の初級、中級、上級のクラスを受講している。上級クラスの受講者は、2006年10月から、日本語・日本文化研修留学生のための総合日本語コースも受講可能となり、7人が受講した。

本稿では、富山大学五福キャンパスに在籍する学術交流協定締結校からの短期留学生について、総合日本語コースの受講状況とスタディ・トリップの実施状況について報告する。

2 総合日本語コース受講について

2.1 2006年度の受講状況

2006秋期（2006年10月～2007年3月）の受講者は7人で、出身大学は韓国の国民大学校が5人、韓国の江原大学校が1人、中国の山東大学が1人であり、学部別内訳は、人文学部が4人、人間発達科学部が2人、経済学部が1人であった。2006春期（2007年4月～9月）の受講者は5人で、出身大学は韓国の国民大学校が4人、中国の山東大学が1人であり、学部別内訳は、人文学部が4人、人間発達科学部が1人であった。受講科目数については、4科目が秋期に3人、3科目が秋期に1人、2科目が秋期に3人と春期に2人、1科目が春期に3人であった。

春期の受講者数と受講科目数が減ったのは、学部の授業と短期留学生修了レポートの作成が大変になってきたためと考えられる。

2.2 授業科目

開講科目は、秋期と春期ともに7科目であり、2006秋期には、聴解を6人、漢字を6人、作文を3人、日本文化を3人、会話を2人、読解Ⅰを1人受講し、2006春期には、読解Ⅱを4人、漢字を1人、作文を1人、会話を1人受講した。

2.3 成績評価

成績評価は総合日本語コースに準じている（「総合日本語コース報告」参照）。学生への成績通知は、学期末に富山大学留学生センター総合日本語コース（短期留学生）コーディネーター 加藤扶久美の名前で「学業成績通知書」を発行し、個別に渡している。人文学部については、学部長名で、「富山大学人文学部短期（1年）留学生プログラム（受け入れ）」に基づく「履修証明書」が発行されている。

また、初級、中級のクラスを受講した短期留学生にも、依頼に応じて、受講証明書を発行している。

3 スタディ・トリップの実施状況

3.1 フィールド・トリップとの合同見学

2006秋期の2006年12月1日（金）午後と2006春期の2007年6月1日（金）午後、フィールド・トリップとの合同見学として、富山市民俗民芸村・五百羅漢の見学を実施した。短期留学生の参加者は

秋期が3人、春期が3人で、留学生指導部門の出原節子がコーディネートし、出原節子と日本語研修コースコーディネーターの後藤寛樹が引率した。

3.2 スタディ・トリップ

2006 春期の 2007 年 7 月 13 日（金）午後に、スクールバスで YKK 黒部事業所の見学に出かけた。参加者は 24 人で、短期留学生在が 3 人、学部生が 2 人、大学院生 6 人、研究生が 6 人、科目等履修生が 5 人、日本語研修生が 2 人で、短期留学生コーディネーターの加藤扶久美が企画し、加藤扶久美、日本語研修コースコーディネーターの後藤寛樹および留学支援室員 2 人が加わって引率した。

4 おわりに

学術交流協定に基づく短期留學生に対する留学生センターの支援は、スタディ・トリップと日本語教育である。スタディ・トリップについては、予算がないので、無料で行ける見学場所を今後も開拓していきたい。また、日本語教育については、今まで日本語課外補講を受講するだけであったが、上級レベルの學生が総合日本語コースも受講できるようになったので、学部との連携をとりながら支援体制を充実させていきたい。